

婦人 と 戦争

フレイベル會總會に於ける講演

東京文科大學助教授文學士 深 作 安 文

私は皆様の御従事の仕事については全く素人で御座いまして、その方面の話はどうも危くて致しかねるので御座います。それで始めから私の思ふ通りの題で話させて下さるならばと云ふお約束で参りましたのです。弱點を並べますやうですが、今週は少し多忙でありました爲めに、見やうと心懸けて居りました参考書もつひ手をふれる事も出来ずに、今日此處へ罷り出でましたので御座います、行き届きません處は、どうか皆様の御諒察を願ひたいと思ひます。

此題を選びましたのは別に深い理由があるので御座いません、時局の戦争とお話する皆様が御婦人であります處から二つをつないで見たに過ぎ

ません、まづ順序として女子の特色もしくは長所といふやうなものを申上げたいと思ひます。女子の特色を數へあげますと第一懐妊次に出産、次に育児であります。此三つは女子の特色中の特色で御座います。それから家事家政といふやうな事もまた大なる婦人の長所であらうと思はれます。その外お料理とか裁縫とかいふものも、殆んど女子獨專の範圍と思ふのであります。日本固有の作法小笠原法などの如きも多くは婦人の關係なざるものゝやうに考へられます。給仕でも日本風のはどうも婦人が適任らしいやうです。次に藝術であります、文學の方面では、これまで日本にも西洋にも立派な女流が輩出して、優に其特色長所を發

揮し得らるゝといふ事を證據立てゝ居ります。

音樂にも婦人は長所をもつて居ります。殊に聲樂の方は男子が到底追付く事が出来ないものがあるのださうです、三浦環女史の如き此頃英米に於て非常な名聲を博して居られるやうであります。次に繪畫ですが、之がまた女流に少からぬ關係を有するやうに思はれます。繪畫をよくした婦人は昔から随分あります。また近頃毎年開かれる文展などにも、いつも閨秀畫家の出品を見ます。次に劇ですが、之は東洋に於ても西洋に於ても男子も女子も共に關係して居ります。佛のサラベルなどは大變な人氣で御座います英國ではアービングが有名で日本で、云へば市川團十郎にも當る役者ですが、技術の上から云ふとサラベル女史の方が上である。と云ふ話であります。近來我國でもだん／＼と女優の勢力が盛になつて參りますやうです。次に彫刻ですが之は文學音樂ほどではないやうです。たつた一人江木夫人が之をよくせられるさうです。

が、一人でもあれば彫刻といふものが女子と全然關係のない事はありますまい。殊に彫刻は繊巧な技術ですから、今後女子と密接な關係を有する事になるかも知れません。其次に社會事業ですが、此事業のある種類のもの、即ち慈善事業の如きは畏くも皇室から御盡力になつて居ります。先頃も熊本で天刑病者の看護に盡力して居られるリゼル嬢に皇后陛下より御下賜金があつたと漏れ承つて居ります、英國などでも、皇后陛下や内親王方が慈善事業によほど熱注して居らるゝのださうで御座います。我が光明皇后の如き實に慈悲の化身の如き御方で御座いませう。傳ふる處によれば天刑病者の爲めに浴場を設けて自ら之を洗ひすゝぎ給ふたと云ふ事で御座います。それから近く盛になつた愛國婦人會の主唱者は奥村五百子女史の如き歴とした婦人であります。其他に事務員、銀行會社員の如きも細い仕事は女子が最適して居るやうに聞いて居ります。

次に男子の特色と長所を申し上げて見たいと存じます。男子の長所は即ち女子の短所になるので御座います。第一に政事法律は男子の特専のやうに思はれます。尤も例外がないではありません、我が尼將軍の如き、英のビクトリヤ女王、露のカザリン皇后の如きは立派な女流政事家でありますしかし大體としては、之は男子の舞臺であります。第二に軍事ですが之もまづ男子の特専の事業と申して差支なからうかと思ひます。失禮に當るかも知りませんが、女子が師團長になられるといふやうな事はどうも一寸考へつかないやうです。乃木夫人の如き烈婦でも將軍のやられた旅順攻撃は出来ませぬ。尤も我國の上代に於ては神功皇后の如き多數の軍勢を御統率遊ばされて遠く新羅を御征伐になつて、婦人の爲めに萬丈の氣焔を擧げ給ふためしもあります。此外に我が國の上代には偉らい婦人が大勢あらはれて居ります。天照大神、伊諸冊命、天鈿女命の如き男子も遠く及ばぬは

たらしきをして居られます。是等を以て或は今後女子と軍事と關係が來るやうになるかもしれませぬ。第三に外交ですが、女子の外交家といふのはどうもあまり見受けられないやうに思はれる。第四に學術はやはり男子の領分のやうに思はれます。學術の中複雑な哲學の如きどうも女子には不適當のやうです、科學の方は例外がないではありません。ラジウムを發見したキユーレー夫人の如きモンテツソリー女史の如き其好適例で御座います。今度の新しい學制々度では婦人も大學へ入學をゆるさるやうになるさうですから、此後女流學者の輩出を見るやうになるかも知れませぬが現今の處まづ男子の舞臺であると云つて差支ありません。それから藝術ですが、これは女子がよほどはいり込む事が出来るのですが、なほ男子でなければいけないある方面が御座います。建築彫刻などの種類であります。之は頭腦を多くはたらかせると同時に腕力を要するからであらうと思は

れます。次に宗教について考へますと、之れも大宗教家は凡べて男子のやうであります。釋迦基督マホメット孔子皆男子であります尤も天理教のおみき婆さんの如き例外もありません。次に殖産といふやうな大規模のものになりますと、どうも女はひげを取るやうで御座います、それから醫者ですがこれも男子と肩を並べ得るほどの女醫はあまり見受けないやうで御座います、動物學の解剖などの如きも、女はどうも氣味がわるかつたりして不適當のやうで御座います。次に探險で御座いますがこの邊になりますと、どうも男子のみの仕事のやうに思はれます。

さてかやうに男子と女子と特色の別れるのはどういふわけでありませうか、之は學問の方から十分に説明する事が出來ます。第一生理學的に考へて見ると女子は男子よりも身體が小さい、尤も之も例外はありまして、有髻男子を眼下に見下すといふやうな大女がないではありませんが、筋骨逞

しいといふ詞は普通男子の形容に用ひられるやうです、之は先天的の違ひであつて生後どうする事も出來ないものであります、即ち神の思召でありますから人力の如何とも致方のない點であります細かい點では女子は男子よりも脂肪質が多い妙齡期に肥滿して來るのは此のわけで御座います。此脂肪の多いといふ事は身體を保護する上に非常な便利を與へます、第一病氣に對して抵抗力が多かつ病氣にかゝつても回復が早いわけになります。それですからこんなに肥えては迷惑であるなど、云はずに益御肥滿になつた方がよいと思ひます。女子の身體中最發育のよいのは腹であります。懷妊等の爲め非常に丈夫に出來て居ります。次に乳房ですが之は非常に尊いものであります。たゞ二つの乳房で五人でも十人でも養育する事の出來る貴重な寶であります。人工的に牛乳などで育てたものと比べますと無論母乳で育てたのが發育もよし學校の成績などもよいと云ふ事であります。前

にあげました諸點から女は自分自身の身體を保護する事が男子より強い、一抱あつても柳は柳かなと云つた風にふうわりと風を受け流すやはらかい弾力性は女子が勝つて居るやうです。此身體の構造から考へましても、人間種族の保存といふ事が女子の天職のやうに思はれます。生理上から考へても男子と同じ範囲内で鎬をけづる事は不利なので御座います。心理的に申しますと、感覺の中で觸覺と視覺と聽覺が男子に比して女子は鋭敏です一寸人に出逢つても一目して頭のさきから足のさきまで何を着て何をつけて居たかゝわかるのさうです、如何に視覺の鋭敏であるかは想像にあまりある事でありませう。觸覺のあるものは鋭くてかつ正確であります。手と目との聯合運動を要するかるた遊びの如き特に女子の得意とする處で御座います。次に注意ですが、之は男子に比して範圍は狭いやうです、深さはよほど深い處までゆくやうですが、ひろさはどうもあまりひろくないや

うです。従つて思想を構成する材料が貧弱であるといふ事になります。之が學問に於て男子にひけ目を取る所以で御座います。ある一つのものに注意し出すと、それのみに傾倒しつくして、それ以外のものには一切氣がつかないといふやうな事が女子に多い、そして知的作用もよほど劣つて居るやうに思はれます。従つて男子に比べるとよほど非學術的非科學的換言すれば空想的であります。歸納的にゆくよりも感情的にゆくものであります。そして保守的である、新しい道理を自分で發見するなど、云ふ事はまづないやうです。之に反して男子はよほど創造的であつて推理も明瞭であります、發明發見といふやうなものは多く男子が之をよくするのであります。其代りに女子は感情に非常な長所をもつて居ります、感じるのが鋭くて強いので、同情とか慈善とかいふ方面について非常な強みをもつて居ります。かつその感情は固執的なので育兒といふやうな面倒なそして長年月を要

する仕事に最適して居るので御座います。而して此長所は同時にまた短所にもなるので御座います。即ち情のはたらきが鋭くかつ強く、自制力が乏しいので克己とか努力とかいふ事がどうも男子に比べてよほど足りないやうに思はれます。之が政事や軍事に適しない心理的理由にもなりませう。

終りに意志ですが之れもまた男子に比べてひげ目があります、喜怒哀色にあらはれずといふやうな事はどうも女子にむづかしい即ち意志の統制力が女子は男子よりもよほど少いやうに思はれます。

かやうに考へて來ると、どうも活動的の事業には女子は不向きなやうであります。然らば女子の最強の處はどこであるか、女子の強みを發揮する世界はどこであるかといふに、それは申すまでもなく家庭であります。どの點から考へても女子の天地は家庭で御座います。何故に家庭が女子の強みを發揮する好適地であるかと云ふと、それは生理的心理的にさうであると一口に云ふ事が出來ま

す。女子が家庭のはたらき手になるといふ事は天的の約束であつて決して一寸やそつとの思ひつきではありません。近來流行つて居ります非結婚主義や、非出産主義といふやうな新しい考へ方は極めて不自然なものであります、それは無論例外はありませうが普通の女は必ず人の妻となり人の母となるのが天から與へられた義務であらうと思はれます。かつまた之れが國家に對する大切なつとめでありませう。

國家といふものは偶然に出來た團體ではありません。現今の文明状態では人間が生活する上に最大切な組織なのであります。人間が天から授けられた諸能力を發揮してその生活を最有價値ならしむるものは、現今の處やはり國家組織でありませう。此大事な國家組織は女子が家庭にはいるといふ事によつて之を鞏固にせらるゝので御座います。男子の持つて居る特色、長所を發揮せしめる爲めにはどうしても女子の内助といふ事が是非必要なので

あります。立派な戦争をする爲めには立派な後備軍がなくてはなりません。堅固な國家を形作る爲めにはどうしても女は内で男は外で各々の長所を發達するといふ事が大切なやうに思はれます。それでどう考へても家庭生活は最よい意味で女子が女子の特點を發揮するに最適當したものゝやうであります。

そこでお話を一步進めまして、婦人と戦争とはどんな關係があるかと申しますと、これはさまざまの點に於てありませうが、第一は後方勤務であります。後方勤務とはたとへば看護婦のやうな種類のものです。此度の戦争に於ても我が赤十字社から英佛露の三ヶ國へ看護婦を派遣せられて居るやうです。赤十字社と申しましたが、これはナイチンゲールと云ふ婦人が創設したもので御座います。第二は實戦と女子ですがこれの關係のない事はありません。右今東西婦人が戦争をした例は決して少くありません。戦争をしないでも橋姫の

如く戦塵の間に壯烈な最後を遂げられたのもあります。静御前の如き悲惨なものもあります。殘忍酷薄を極めた戦場に、優美なをして感情のこまやかな女性が點綴しますと如何にも劇的な美しい光景を呈します。巴、板額の如き武勇に勝れたものもあります。近く此歐洲の亂にもロシアの一婦人が男装して従軍したといふやうな話も見えて居りました。古へは神功皇后の如き武勇絶倫の方もあらせられました。

戦争と婦人との關係を今少し具さに考へて見ますと、後方勤務に婦人がはたらくと云ふ事は如何ばかり戦場の士氣を勵ますかわかりません。日露戦争に行つた人の話を聞いて見ますと、戦場で何が愉快だと云つていろ／＼心づくしの品々の封じられた恤兵品を分配せられる時ほど愉快な事はない。殊にその寄贈者の名前が優しい女性である場合荒びた心が和らげられて無上の慰藉を覺えるものであると云ふ事でありました。

第二の實戰の方ですが之も切迫つまつた場合は必要であらうと思ふ。

しかしまづ普通の場合には女子は家庭に於て後方勤務をしやうといふ心懸けが大切であらうと思はれます。そしてそれはどういふ事かと申しますと家事家政を取る場合に、よく國家の状態を考へて國産品の使用をおろそかにしないやうに、また時局の結果物價がどう變動して居るかをよく自覺して、女子相當の義務をつくす事が最肝心で御座いませう、それからまた家庭教育に於て其天分を盡すといふ事が婦人の最大の務めであらうと思はれます。それで家庭教育に於ては日本の母なる人は其兒女に日本主義を鼓吹する事をつとめてもらひたい、即ち犠牲的精神を吹き込んでおもらひたいのであります。そして時局の關係なども主婦たる人が一通りほのみこんで居て、子女の頭にも入れるやうにしてもらひたいと思ひます。此間大學で時局に關係した會が御座いました時、ある女學

校の校長が「自分の學校の生徒に時局について質問した處が一同まるで風馬牛で、何を訊いても知らないので驚きました。如何にして時局の觀念を與ふべきか御教示を仰ぎたい」といふやうな質問が御座いました。私は母に昔の有様を聞きました。昔は士分の家内は皆其藩の大勢位は心得て居て、その危急存亡の場合の覺悟などは平素から持つて居たものださうです。そして娘の嫁に行く時は必ず之に懷劍を與へて、時機の到來した時に立派に使用せよと云ひさせたものださうです。

昔から偉らい人々の傳記などを讀んで見るとどうも賢母に教育せられたものが多いやうです、母の感化ほど其子女に大きな影響を與ふるものはありません。母は第一其子を生んだものであります。自分の身體からだから出した子供でありますから、其愛情の濃やかさは到底他に比較するものではありません。まい、此濃やかな愛情をもつて教へ育むのであるから其感化の大なるは自然の勢でありませう。婦

人と戦争のお話の終りに臨みまして私の曾つて實見致しましたお話を致して見たいと思ひます。日露戦争の當時でした。私は弟の出征を送つて品川の停車場に参りました。汽車の窓の方によつて弟と話をして居りました時、見るともなく見ると私の直ぐ側に年頃三十歳位の婦人が居りました。服装などは職工の家内位の處に見えました。頭は櫛巻といふ結び方をして、背中に三四歳位の子供を負ぶつて居りました。夫らしい出征軍人と何か語り合つて居りましたが、いざ汽車が出やうとする時、其婦人が夫に暇乞をした挨拶を私は今に忘れる事が出来ません。あちらへ行つたら功名をして

發作的に動作する子供

歸つておくれね。子供の世話などは私がするから心配しないでね。」と云ひました。職工風情の細君として其夫の出征を送るにこれほどの詞を以てしやうとは私は殆んど思ひかけませんでした。「功名して歸つておくれ」「子供の世話は私がするから」軍人の妻として之れ以上夫の門出を送る言葉はありませぬ。私は誠に心強く感じました。此詞を以て送られた夫が戦場で卑怯なふるまひは出来なだらうと思ひましたから。それで十年後の今日婦人と戦争についてお話を致しますについてかの殊勝な婦人の態度を新たに思ひ起すので御座います。(文責記者)

文 學 寺 田 精 一

こゝで發作的といふのは、連続的に一貫して居

るといふのでなく、時々或時間を隔て、普通と異つた状態が起るといふ意味である、然し其期間